水産資源研究会：神奈川初！！カワハギ種苗生産　新聞に掲載されました！

先日、HP で報告したカワハギの種苗生産について、神奈川新聞で紹介されましたので詳細をお伝えします。

本校長井海洋実習場近くの相模湾沿岸は、近年海藻がなくなる磯焼けが起きています。そのため、海藻を住処とするサザエやアワビが減少し、また釣り人に人気のあるカワハギも減少傾向にあります。そこで、学校再開し放課後の活動が可能となった７月より２か月間にわたり、有志生徒によるカワハギ種苗生産がスタートしました。

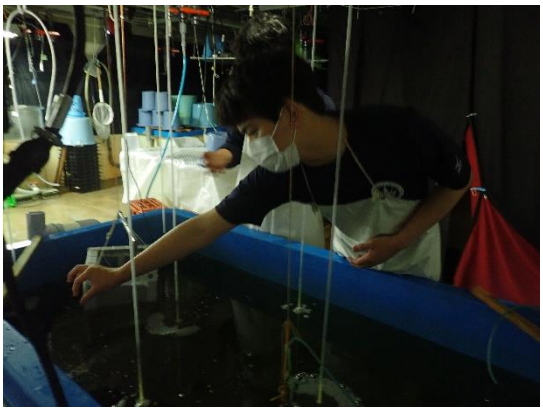
実は、カワハギの種苗生産は神奈川で初めて！！卵から生まれた時の大きさも口も小さいうえ、成長するにつれて、お互いに噛み合いをし、放流まで試行錯誤の繰り返し、気が休まることがありませんでした。噛み合いを防ぐための隠れ家なども手作りに設置。小さなカワハギが逃げ隠れている姿にホッとしたり、海藻の重要性を再認識したり、学ぶことが多い密な 2 か月でした。

８月２０日、約 5cm に成長したカワハギ約 700 尾を小型実習船「わかしお」にて相模湾に放流しました。ちょっと寂しいけど、大きく育つことを願うばかりです。

生まれたてのカワハギの赤ちゃん

2 か月後には立派に成長。

生徒がつくった隠れ家で一休み



よく餌を食べるので、こまめに配合飼料を撒きました。

カワハギ大きく育て

海洋科学高生、稚魚を放流

横須賀

県立海洋科学高（横須賀市長坂1丁目）の生徒が20日、課外活動で育てたカワハギの稚魚を放流した。水産資源の減少を防いで海を豊かにするため、生徒は稚魚の栽培から熱心に取り組んできた。

日頃から海洋や水産に関する研究を深めている同高水産クラブの生徒は6月から、カワハギの種苗生産を初めて実施。水産業者から購入した受精卵をふ化させ、えさとなる動物プランクトンを定期的に与えて約2カ月かけて育てた。約10万個の受精卵から、当初の予想より多い約700匹の稚魚が育ったという。

4～5センチほどの大きさになった稚魚を実習船で長井漁港（同市長井5丁目）から沖まで運び、カワハギの成長に適した岩や海藻のある浅瀬で、バケツを使って放流した。

生徒や教員らは船の上で充実した表情を見せ、3年の田中麻緒さん(17)は「かわいいカワハギだったけれど、食べるためにやっているので大きく育ってほしい」と願っていた。稚魚は今後、3～5年程度で成魚となるという。（砂田　弘明）

4～5センチほどに育ったカワハギの稚魚を海に放流する海洋科学高の生徒

神奈川新聞に掲載されました。